

東大ワールドカフェ

【開催趣旨】

様々な分野の東大卒業生が再び東大に集い、現場の経験と問題意識をもとに、より良い未来の実現に向けて建設的に語り合う東大ワールドカフェ。今回は、今後、益々深刻化していくであろう超高齢社会の課題に対し、どのように対処していくかではなく、「活力ある超高齢社会を、どう共創していけば良いか？」をテーマに、次の3つの観点から、GLAFS（活力ある超高齢社会を共創するグローバル・リーダー養成プログラム）の学生と共に考えて行きたいと思えます。

①我々、一人一人のワークスタイル、ライフスタイルのあり方

②高齢者のポジティブな側面の活かし方

③超高齢社会を支える技術開発

そして、参加者の一人一人が自分事として、新たな気づきを得て、今後の研究や仕事、あるいは、生き方の参考になったり、更には、世代や分野、業界やセクターといった枠組みを超えた新たなネットワークの形成、ネットワーク形成によるオープン・イノベーションの促進へとつながることも期待しています。是非、この機会にご参加ください。

【日時】10月15日（土）16:00～18:30（受付：15:30から）

16:00～16:30 キーノートスピーチ

16:30～18:30 ワールドカフェセッション

【場所】東大本郷キャンパス 法文1号館315教室

【テーマ】「活力ある超高齢社会を、どう創って行けば良いか？」

【キーノートスピーカー】秋山弘子氏（東京大学 高齢社会総合研究機構特任教授）

ゲスト：GLAFS履修生

《テーブルテーマ》

①活力ある超高齢社会の実現に向けて、我々はワークスタイルやライフスタイルを、どうデザインしていけば良いか？

これから進行する超高齢社会では、働き方や暮らし方に対するこれまでの価値観や社会規範が変化していく可能性があります。そんな中、老若男女を問わず全ての人が、多様な個の尊重と自身の強みを発揮し働きがい、生きがいのある社会にしていくためには、我々一人一人が、どのようにワークスタイルやライフスタイルをデザインしていけば良いのでしょうか？

②高齢者のポジティブな側面を伸ばし、活かしていくためには、何をしていけば良いか？

高齢化の進行に伴う社会保障費の増大、少子化による労働力人口減少は超高齢社会における社会保障制度の大きな課題です。一方、高齢者を社会資源と捉え、高齢者が培ってきた経験や知識、その他多様なポジティブな側面にスポットを当てることで、新たな社会的・経済的価値の創造といった期待も高まっています。それでは、高齢者のポジティブな側面を伸ばし、活かしていくためには、何をしていけば良いのでしょうか？

③超高齢社会に求められる技術とは？

介護ロボットや自動運転自動車のように物理的に介護や移動や支援してくれる技術やICTによる時空を超えたコミュニケーション技術、AIによる医療診断の他、再生医療といった技術も、急速に発展しており、既に実用化されているものも多くありますし、今後新たに開発される技術もさまざまだと思います。そんな中、今後、活力ある超高齢社会の実現に求められる技術とは、どういったものが考えられるのでしょうか？

主催：東京大学ワールドカフェ・コミュニティ

協賛：東京大学 高齢社会総合研究機構、東京大学卒業生室

募集人員：40～50名（先着順）

参加費：無料

◆参加希望者のみ、懇親会

18:30～20:00 懇親会（会費制：実費程度）

場所：中央食堂